

7月4日(金) 同窓会総会開催

これまで支援を続けてこられたわけ
これからも支援が必要な被災地



静中・静高関東同窓会
会報 第77号
平成26年6月5日発行
編集人 八牧浩行 (82期)



平成26年度 関東同窓会・懇親会を開催します

岳南健児、岩手三陸の野山を駆ける

同窓生が支えたSAVE I W A T Eの復興ボランティア活動

記

日時 七月四日(金) 午後六時より

場所 日本プレスセンタービル10階

東京都千代田区内幸町二―二―一

(会場案内は下記)

懇親会費 四〇〇〇円(但し学生は一〇〇〇円)

年会費の三〇〇〇円は当日受付も致しますがこの会報に同封の振込用紙によりご納入をお願い致します。

同窓会総会 議題

一号議案 平成二十五年度事業報告、会計報告
二号議案 平成二十六年事業計画、予算計画

講演

これまで支援を続けてこられたわけ
これからも支援が必要な被災地

講演者 寺井 良夫氏(92期)

まちづくりコンサルタント。岩手三陸の復興を支えるボランティア団体「SAVE I W A T E」理事長。

経歴



1983年 東京工業大学
大学院理工学研究科修了
(社会学専攻)
2001年 邑計画事務所
代表取締役
2011年(平成23) 3月
一般社団法人SAVE I W A T E
理事長

今年、東日本大震災以来、SAVE I W A T Eで岩手県の復興に尽力する寺井良夫さん(92期)が講演を行います。私たち静岡の地も「東海地震」が予想されていますが、岩手の復興の現場の状況については大変興味深いものがあります。

会場には三陸の山海の珍味満載

会場では、この講演を記念し、岩手三陸の味を皆さんにお楽しみいただけるように、現地の復興を支える海鮮工場から直送の山海の珍味をテーブルにお届けします。毎年求られている方も、今年は岩手三陸の味を加味した、一風変わった趣向をお楽しみに！

復興現場見学の「岩手ツアー」実施

この総会を盛り上げるために、92期の有志が「震災復興現場見学と懇親を深める、岩手ツアー」を企画し、5月10日から11日の1泊2日で、ツアーを実施いたしました。

ツアーには、多賀谷会長・青木副会長以下総計23名が参加。10日朝ツアー参加者は盛岡駅に集合

(三ページにつづく)

会場案内図



会場

日本記者クラブ 大ホール
日本プレスセンタービル10階
東京都千代田区内幸町一―一―一
電話：〇三(三三)五〇三三―二七二
FAX：〇三(三三)五九三三―六三三三
東京メトロ 千代田線・日比谷線 霞ヶ関駅C3
東京メトロ 丸の内線 霞ヶ関駅B2
都営三田線 内幸町駅A7
JR 新橋駅 日比谷口(SL広場側)

した後、バスで、まず盛岡市内のSAVE IWAITEの活動現場を見学(陣中見舞い)。

そして最大津波の被害を受けた田老町に移動して現地の皆さんの話を聞き、被害の状況を身にしみて感じました。

夜は宮古市内のホテルで、東北の美酒と肴に懇親を深め、翌日は三陸鉄道に乗りして北三陸の復興状況見学と、テレビ番組「あまちゃん」のロケ現場などを観光しました。

下記の写真は、「もりおか復興支援センター」にて、ツアー参加者の面々。参加者の1人が言っていました、「まあ、大人の修学旅行だね」。旅行の雰囲気は総会の

会場の皆様にも、伝われば幸いです。(92期 清水 篤)



古本を持ち寄り輪を広げよう

〈古書コミ〉7月総会からスタート

関東同窓会役員会

まずは、1冊の本からはじめよう!!

関東同窓会に寄付いただける本を、同窓会当日にご持参ください。新しい同窓会の取組として、『古書コミュニケーション』を始めて、3月19日開催の理事会にて、『試行として、まずは取組んで

みよう』と決定いたしました。

これは、1冊以上の本を関東同窓会へご持参の上、寄付いただき、そのうち、1冊は会場で用意したコーナーにて、他の会員の持ち寄った本と交換もできるというものです。交換本は、次年の同窓会にまたご持参いただき、また交換していくと

いう仕組みです。本を通じて会員同士がつながっていきます。

さらに、交換せず集まった本は、中古本買取業者に換金してもらい、その売上金は、将来基金として、現役学生等へのなんらかの支援のために積み立てていこうという仕組みも考えております。なにぶん、新しい取組みのため実際に行う際には、想定していない問題点も出てくると思っております。しかし、会員の皆様の暖かいお気持ちで、より有意義な関東同窓会の場になるのではと新しく取り組むことになりました。

以下 Q & A ・図等をお読みいただき、気軽にまずは、1冊からはじめようとお願ひいたします!!。

Q1 目的はなんでしょう?

A 大きく3つ目的があります。

1 次回も同窓会に足を運んでいただきたい。

同窓会に出席しても、同期で集まって終わりではなく、本を通じて期を越えてつながることができないかと考えました。同窓会で交換した本を次回、持参いただくことになりました。世代を越え、できれば感想など帯に記載があれば、つながっていきます。

2 交換本の残った本はそれ

を中古本買取により、わずかですが換金できれば、それをもとに現役学生への支援へと、貢献できる同窓会になれると考えております。

ただし、まず最初は何冊集まるかわからない。また、それがいくらになるかも不明です(1冊10円程度見込み)。

3 自分の知らないジャンルの本に触れる機会にもなります。いつもは読まない本も同窓会の会員の皆様の帯にかかれた推薦文によって、手にして読んでみようというきっかけが生まれやす。

Q2 費用はかかるのでしょうか?

A コストはかかりません。業者にはまとめて送りますが、着払いですので、同窓会の負担はありません。

A 本には、限定があります。本はバーコー

下付のものであること。雑誌、漫画、辞書は不可です。あまり書き込みのあるものも不可です。

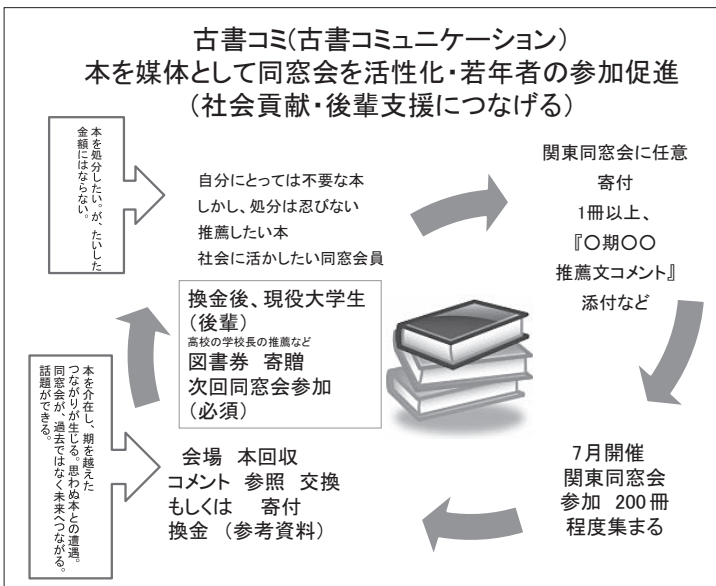
Q3 換金方法は?

A 同窓会は任意団体のため、代表者個人宛になります。現時点では以下のような手順を考えております。

1 送付の際に、同意書と身分証明【免許の写し】を添付します。口座も明記します。

ただし、通常は代表者の住所に本を取りにきてもらうところを、会場に来てもらうために、買取後に、代表者の住所に業者

古書コミ(古書コミュニケーション) 本を媒体として同窓会を活性化・若年者の参加促進 (社会貢献・後輩支援につなげる)



関東同窓会に任意寄付 1冊以上、『〇期〇〇』推薦文コメント」添付など

自分にとっては不要な本しかし、処分は忍びない推薦したい本 社会に活かしたい同窓会員

交換後、現役大学生(後輩) 高校の学校長の推薦など 図書券 寄贈 次回同窓会参加(必須)

会場 本回収 コメント参照 交換 もしくは 寄付 換金 (参考資料)

7月開催 関東同窓会 参加 200冊 程度集まる

本を処分したいが、たいした金額にはならない

本を介在し、期を越えたつながりが生じる。思わぬ本の運命。同窓会が、過去ではなく未来につながる話題ができる。

から、書留で確認のためパスワードが送られて、それでアクセスの上、本人の住所確認となります。そのため、口座に振り込まれるには時間がかかりますが、12月の発行の同窓会会報発行の際には、その金額や結果のご報告を掲載できると見込んでおります。

2 本の冊数と金額は 業者からお知らせがありますので、それで同窓会の口座の金額を確認します。

3 現在使用されている関東同窓会の口座を古書買い取りへの振込み先とします(予定)。

Q4 同窓会で別の本と交換もできるというのは？

A 1冊以上不要な本を同窓会に持参のうえ寄付いただき、会場にて1冊だけは他の同窓生の持参した本と交換できる仕組みです。【交換したい本があれば：あくまでも交換するかどうかも自由です。】会場にコーナーを設置予定。

イメージとしては、携帯しやすい本・文庫本を想定しており

例 文庫本 3冊 寄付 そのうち1冊は同窓会場にて別の本と交換する。次の年、その本+自分の本の不要本があれば1冊また持参：また交換…。

Q5 参加は自由ですか？
A はい、自由です。不要な本がなければもちろん持参することはありません。

ただし、持参本がなければ、交換はできませんので、ご了承ください。

Q6 集まった本が少なくても買取できない場合がありますか？
A 5冊以上あれば、宅配で送ることが可能です。最初から一人1冊以上で、買取本が200冊も集まるといえるのは無理ですが、最低の5冊は集まると思っています。ただ、その場合、買取金額は見込めません。

Q7 交換する本に事前に帯に感想や氏名を記載というのはなんででしょうか？
A 単に寄付いただき、それを換金するだけではなく、『古書コミ』では、本を通じてコミュニケーションの場にしたというねらいもあります。これも、記載は全くの自由です。自分は

もう読まないが、誰かに読んでもらいたい本には、帯をつけていただき、推薦文や感想、◎期◎◎と入れていただくと、次回その本を読んだ他の同窓生がまた、名前をいれて次々と本がバトンされていき、意見交換もできる。本を通じて期を越えた交流もできるようにするのはとねらいもあります。



もう読まないが、誰かに読んでもらいたい本には、帯をつけていただき、推薦文や感想、◎期◎◎と入れていただくと、次回その本を読んだ他の同窓生がまた、名前をいれて次々と本がバトンされていき、意見交換もできる。本を通じて期を越えた交流もできるようにするのはとねらいもあります。

(90期 山下 雅子)

幼児教育に新しい風を

83期 久野 泰可

1972年4月に渋谷警察署の裏の小さなビルの3階で始まった実験教室への参加が、私が幼児教育の実践に関わった最初の仕事でした。以来42年間、毎日子どものいる現場に身を置いて、「幼児期の基礎教育」の在り方を考え続けてきました。研究者の道を断念し、実践の現場に身を置いて今日まで来られたのは、

「幼児教育の変革のためには、実践者が過去の遺産をしっかりと学び、子どものいる現場から発言しなければいけない」という想いがあったからです。「遊び中心の自由保育だけではいけない。」「正しい意味での『知育』が幼児期から行われなければならない、

日本の子どもたちの学力が崩壊する」…そう考え続けて、現在に至っています。

大学闘争を経験した世代だからこそ、変革の先頭に立たなければならぬ。公教育の矛盾を一つずつ解決していかなければならない。大学で教育を学んできた人間だからこそ、既存の考え方を打ち破る新しい実践を自ら示さなければいけない…そんな想いを持ちながら、現場にこだわり続けてきました。しかし、この世界から逃げ出したいと思っただことが2度ほどありました。一度目は、「保育の世界に、男性がかかわることにはどんな意味があるのだろうか」と疑問を抱いた時。そしてもう一度は、民間で行う教育活動において、「経営」と「教育」のはざまに悩みながら、そもそも教育を商品化することに矛盾があるのではないかと迷った時でした。そんな壁にぶつかりながらも、42年間現場でやってくることでできたのは、「幼児期にこそ、しっかりと基礎教育を行わなければならない」という強い想いがあったからです。

幸い、私が現場から発想して作り上げた、幼児のための教具・教材が評価され、現在全国で200余りの書店に直接取引で教材を



鎖の長さを比べる

置かせてもらっています。また、私が開発したメソッドが海外で評価され、中国・韓国・香港・ベトナム・インド・タイ等近隣諸国において、「KUNOメソッド」による幼児期の基礎教育が始まっていることや、国内においても、幼稚園や保育園にこのメソッドを導入する仕事に4年前から始まっています。すでに66歳を超え、一般的には現役を退く年齢になった今も、情熱をもった若い人たちと、一緒に仕事ができる喜びを感じています。

日本の教育もガラパゴス化

この5年間、中国・韓国や東南アジア諸国に行き、講演を行ったり、モデル授業をしたり、現地の大学教授や園長達と話をしている中で明らかになったことは、日本の幼児教育が世界